

令和 8 年度 市政懇談会 開催議事録

開催日時：令和 8 年 8 月 5 日（水）午後 6 時～7 時 30 分

開催場所：市役所 本所 2-1・2-2 会議室

出席者：26 名

《意見交換》

- 1 観光アプリの開発について
- 2 岩間駅周辺の道路について
- 3 観光誘客について
- 4 フードキャンプなどについて
- 5 体験と民泊と食を組み合わせた誘客について
- 6 二次交通について
- 7 観光地案内の多言語表記について
- 8 観光資源づくりを行う組織の設立について
- 9 渋滞対策について
- 10 愛宕山について
- 11 総合計画の見せ方について
- 12 観光の重要性について
- 13 交差点名標識について
- 14 夜の観光について
- 15 笠間ファン倶楽部のオンライン化について

1 観光アプリの開発について

【意見等】

観光客の皆さん向けに新しい観光アプリをつくるのはどうか。現在は笠間観光協会などが中心に観光客の案内しているが、今後、観光案内をする方が少なくなってくることが、課題のひとつになると思われるので、さまざまな案内をひとつのアプリにまとめ、観光客それぞれのニーズに合った提案がアプリでできるとよいと思う。

一企業が開発をすることは費用面で難しいため、市で開発に協力していただけるとありがたい。

【回答】

よい提案だと思うので、費用面も含めて検討する。

2 岩間駅周辺の道路について

【意見等】

岩間駅東口からまっすぐ道路は整備されているが、北側や南側から駅方面へ向かう道が狭く、迂回しなければいけないこともあり不便である。

【回答】

使い勝手が悪いということであると思うが、状況を確認する。

3 観光誘客について

【意見等】

秋とそれ以外の季節の観光客の差が激しいと感じている。東京などでは、外国からの観光客が季節関係なく観光しているので、インバウンド需要を取り込んではどうか。外国の方が日本に来る目的は圧倒的に「食」で、笠間市は栗という強みがあるので、県内の中でも優位性があり、外国の方を呼び込むことができるのではないかなと思う。

【回答】

6月～8月、2月～3月は観光客が一番少ない時期である。インバウンドを含め通年の誘客の必要性はあると思う。オールシーズンの観光客アップは、これまでも課題であったため、そのようなことを踏まえて、これからも観光誘客に取り組んでいきたい。

4 フードキャンプなどについて

【意見等】

フードキャンプやガストロノミーなどの取り組みを行い差別化できている地域の需要がとても伸びている。他県では、ガストロノミーとオーベルジュを組み合わせることで経済効果を生み出しているところもある。笠間市には栗があるので、オーベルジュのようなものや、民泊、農泊も含めて、取り組みを具体的にしていくのはどうか。

【回答】

昨年、栗をテーマにしたフードキャンプを実施していただいたが、非常に評判がよかった。笠間ならではの食を通じた観光の取り組みであり、このような観光の取り組みは、これからの稼ぎ方の一つだと感じた。今後も食と観光をしっかりと繋いでいきたい。笠間市の食の観光の目玉として、栗に限らず実施できればと思っている。

5 体験と民泊と食を組み合わせた誘客について

【意見等】

体験と民泊を組み合わせることでどのように誘客に繋げていくのがよいのか。昨年は、学校単位で体験と民泊を組み合わせる体験学習を実施し、台湾や県外から多くの方に笠間に来ていただいた。個人向けの場合、どのようなコンテンツであれば、笠間に来ていただけたらと思うか教えていただきたい。

【回答】

観光で訪れる方と教育旅行で訪れる方の目的は別であると思うが、民泊と体験と食を繋いでいくことは必要と感じる。それぞれの事業者を誰かが繋がないといけないため、その担い手が課題であると思う。

6 二次交通について

【意見等】

観光客の方と話をするとシェアサイクルや空港からのアクセスなど、二次交通が不便だという声が聞かれる。特に外国の方は、シェアサイクルが利用できず困っていた方もいる。また、茨城空港から笠間市には、水戸や石岡に路線バスで移動してから電車に乗り継いで来る必要があり、利用しづらいとの声もある。

【回答】

笠間市は観光名所などが分散しているため、シェアサイクルは重要な要素のひとつである。二次交通のつなぎについては、どこを起点とするのかを考える必要があるが、充実させていきたい。茨城空港からのアクセスについて、自治体単独で対応することは難しい状況。

7 観光地案内の多言語表記について

【意見等】

笠間市は駅や各観光地に多言語表記の案内が少ないと感じる。これから官民が一体となって、どのような表記が観光客に分かりやすいのかを考えていく必要があると思う。

【回答】

多言語表記をするには費用面での課題などがあるが、観光地づくりとしても必要な取り組みであると思っている。外国の方を呼び込むためにも多言語表記を進めていきたいと思うので、ぜひ協力をお願いしたい。

8 観光資源づくりを行う組織の設立について

【意見等】

地域の稼ぐ仕組みが弱く、戦略的に渉外を行う組織もないため、市でDMOやDMCの組織を設立していただけるとありがたい。また、民泊や食を繋ぐ体験コンテンツのマッチングをまとめる存在がいらないため、検討いただきたい。

【回答】

食と観光、笠間焼、民泊がしっかりと繋がると大きなものになると思うので打ち出していきたい。新たな組織をつくる必要まではないと思うが、誰が中心となって行うかがポイントになると思うので、そこを作り上げていく必要はあるだろう。

9 渋滞対策について

【意見等】

市内に観光客が増えたのは良いことだが、9月～10月の笠間市内の混雑が課題であると思う。

【回答】

渋滞対策について、昨年度は案内を充実したり、警備を増やしたりしたため、改善された。また、観光協会と連携しながらアキッパ（駐車場シェアサービス）を活用し渋滞対策に取り組んでいる。今後も引き続き対応していく。

10 愛宕山について

【意見等】

都内から来た方は、愛宕山からの景色や上郷地区の畑を見ると本当に喜ぶ。道の駅かさまや笠間地区を観光して帰ってしまう方もいるため、岩間地区にも回遊できる仕組みをつくっていただきたい。近隣の市町村と一体となって誘客するのもよいのでは。

【回答】

愛宕山をどう PR していくか、どのような仕掛けをしていくかということが、愛宕山の魅力度アップを考えるうえで重要であると思う。地域の皆さんもぜひ協力願いたい。今後も愛宕山の魅力を伝えていきたい。

11 総合計画の見せ方について

【意見等】

イラストなどを使い、子どもにも見やすい計画にしていきたい。

【回答】

計画をつくっても誰も見ないのでは意味がない。どのようにしたら見てもらえるか、見せ方も大切なため工夫していきたい。

12 観光の重要性について

【意見等】

笠間市は、観光事業者だけで成り立っているわけではなく一般の会社員や農家が大部分である。そのよう方々が観光に対してどのような視点を持っているのか考えてほしい。

全体の動きとしては、seeing（見る）から joining（体験）その次の being（何もしないでいる）が結果的には癒しに繋がっていくのだと思う。癒しの空間として何もしないということが最終的な観光の姿ではないかと考えている。基本姿勢はハイブリッド構造で、農業の良さと都市部の良さを組み合わせた観光開発が必要であると考えている。伝統と都会的センスの共存で、国内旅行者と外国人旅行者との両方に目配りした観光開発、最終的には観光に関係する方と観光に関係がない一般市民が協力する必要があると思う。具体策を話す前に全体のビジョン・理念を考えたいうえで観光開発をする必要があるのでは。

【回答】

理念的なものは必要であると思う。参考にさせていただく。

13 交差点名標識について

【意見等】

笠間小学校付近の五差路の交差点名標識がなく不便である。市として信号機の交差点名標識をどのように考えているか。

【回答】

最近交差点名標識をあまり設置していないところも多い。信号機は警察の管轄であるため確認する。

1 4 夜の観光について

【意見等】

夜に門前通りを歩いたが、井筒屋がライトアップされているだけで、ほかは明かりがあまりなかった。旧笠間の市街地については再開発が必要ではないかと思う。点から線、線から面で進めていただきたい。

【回答】

夜の観光については、最近、全国的にさまざまな取り組みをする自治体が増えてきているため、笠間市でもどのようなコンテンツが夜の観光に結びつくのかを考える必要はあると思う。

1 5 笠間ファン倶楽部のオンライン化について

【意見等】

笠間ファン倶楽部のオンライン化を検討していただきたい。ただし、さまざまあるオンライン施策が連携していなければ意味がないので、それぞれ繋がるようになるとよいと思う。

【回答】

オンラインのものがひとつに繋がるとよいということで、ご意見として承る。